

令和3年3月で東日本大震災の発災から10年の節目を迎えます。

震災当時は、普段なら簡単に手に入れることができる水や食料が手に入らなかったり、電気が使えず、町から明かりが消えてしまったり、いつもの日常が一変しました。そのような生活を経験し、震災から10年の節目の年に成人を迎えた4人(当時、小学4年生)に当時感じたことや、これからのことをインタビューしました。

4人は震災を通して、家族の大切さや温かみ、地域の人たちとの普段からのコミュニケーションの重要性を感じており、その当時の経験を今後に生かしていきたいと、インタビューの中で思いを語ってくれました。

成人を迎え、それぞれの目標を胸に、勉強に励んだり、社会に出て働いていた、一歩一歩、前に向かって進んでいます。今まで支えてくれた人々への感謝を忘れずに、今度は、支えられる側から、支える側として、さらに活躍してくれることを期待します。

#### Interview



#### 助け合いの精神を大切に。

震災直後は近所の人たちと助け合いながら生活をしていました。その経験から、人と関わることで、学ぶことがあると気づき、スポーツのコーチをするなど交流の場を広げています。20歳になり思うことは、母への感謝です。母は20歳の時に私を産み、自分の時間を犠牲にしてまで、私に尽くし、育ててくれました。現在は公務員として働いています。助け合いの精神を忘れず頑張ります。



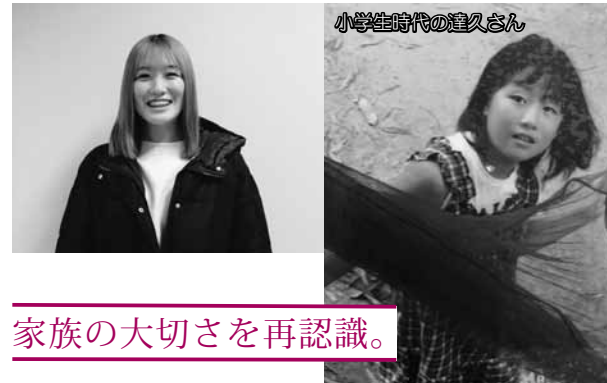
#### 「食」で子どもたちを元気に。

震災後、集会所へ避難しました。避難所での生活に不安はありましたが、当時、母と一緒に見た夜空の星がすごく綺麗で、勇気をもらったことを覚えています。今は管理栄養士の資格取得に向け、勉強に励んでいます。ボランティア活動で子どもと触れ合っていくうちに、子どもと関わる仕事がしたいと思ったことがきっかけです。「食」を通して、子どもたちの成長に関わっていきたいです。

# 東日本大震災から10年 僕たち 私たちは大人になった

— 震災当時、10歳(小学4年生)。今年成人を迎えた4人にインタビューしました —

#### Interview



#### 家族の大切さを再認識。

当時のことで印象に残っていることは、家族が一部屋に集まって寝たこと。不安でしたが、近くにいることがうれしかったし、安心できました。今までは、家族に頼りきりでしたが、20歳になったことで、自分のことは自分でやっていけたらと思うようになりました。将来は、診療情報管理士になりたいと思っています。応援してくれる家族や友人たちには感謝しかありません。期待に応えられるよう頑張ります。



#### 理学療法士として支える側へ。

震災当時は、食べ物や水の調達、すべてのやりくりを家族に行ってもらいました。「大変だな」と、子どもながらに思ったことを覚えています。今は、理学療法士を目指しています。病気を抱えている自分を家族や病院の人たちが支えてくれたように、次は自分が支える側になりたいと思っています。震災を通して子どもながらに思ったこと、感謝の気持ちを忘れず頑張ります。